

ストーリー

【1部】

これから始まる地球の物語。
この宇宙に奇跡的に存在している惑星、地球。宇宙で最も美しい惑星、地球。
そこには、愛することを知らぬ人々がいるから。

アリストテレスが球体だと言いだした時より、何十億年も昔から存在してきた地球。
地球が生まれ、46億年の月日を経て、やっと繁栄し始めた人々。
人はこのかけがえのない地球を大事にし、地球と共生している。まるで地球の一部かのように。
そして、人は人を愛し、人を助け、人を守る。

魂の底から、人々の声が聞こえてくる。ああ、この美しい地球に生まれて良かったと。
地球の叫びが聞こえてくる。ああ、愛を知る人々と共生できて良かったと。

この美しい惑星、地球のある村に、互いを助け、村を守っている二人の青年、ケインとエイブがいました。
村はいつも笑顔にあふれ、暖かく、思いやりに満ちた人々にあふれている、この美しい星に生まれたことに心から感謝して。
固い信頼の絆で結びついている二人。この信頼を壊すことなど到底不可能。。。。
しかし、ある日突然、その日はやって来た。

ケインの妻が突然不治の病に。最愛の妻を失ってしまうのか。
エイブのたった一人の娘も、同じ不治の病に。エイブも最愛の娘を失ってしまうのか。
そして、神秘的な力を持つ、生命の樹の「リンゴ」に出会うケイン。食べれば、どんな不治の病も直す「リンゴ」に。

「リンゴ」を手に入れたケイン。ケインは「リンゴ」を途方に暮れているエイブに分け与えるのか。
分けたら不治の病が直らないかもしれない。
「リンゴ」を貰えないエイブは、人を愛し続けることができるのか。。。。
その時、エイブの最愛の娘に最悪の事態が。。。。

悲しみは怒りに、怒りは悲しみに転化し、行き場を失った怒りと悲しみは、やがて憎しみの連鎖へと繋がって行く。。。。

【2部】

悲しみは怒りに、怒りは悲しみに転化し、愛を知る人々の心を蝕んでいく。
美しい惑星、地球が蝕まれていくかのように。
人は怒り、人は悲しみ、やがて憎しみの連鎖に繋がっていく。

憎しみは相手にも同じ怒り、悲しみを味あわせてやりたいという衝動をもたらす。
憎しみは人の最も厄介な想い。何故なら、何物を以ってしても癒すことが出来ないから。
憎しみは相手が報いの苦しみを味わうことを望む。最後には相手が全くなくなることさえ望んでしまう。

地球の悲しい叫びが木霊し、絶望の渦が地球を覆っていく。
ケインは最愛の妻を亡き者にしたエイブを許すことができるのか。
エイブは最愛の娘を助けなかったケインを許すことができるのか。
そして、自らを許すことができるのか。

憎しみは相手の悪を求めている。悪がある限り、憎しみは決して癒されない。
悪という存在は何なのか、いったいどちらが悪なのか、絶対的悪は存在するのか。。。。

憎しみの中に、人は人を愛し、人を助け、人を守るものだという事を思い出した時、、、
憎しみの中に、この宇宙で最も美しい惑星、地球に生まれたことを感謝していた事を思い出した時、、、
そして、憎しみの中に、愛することを知らぬ人々もこのかけがえのない地球の一部であることを思い出した時、、、
人は相手に光を求め、許すことができるようになるかもしれない。

同じ地球の民として、尊き互いの存在を受け入れることが出来た時、地球に光がまた戻って来る。。。。